

2021

ピースアクションinヒロシマ

高まる若者への期待⇔広まる 若者の活動



特集号

~発行者~
崇徳高校新聞部

被爆76年 平和特集

広島県生活協同組合連合会などが主催する「ピースアクションinヒロシマ」は、高校生や大学生など若者による平和活動の発表や被爆者によって語られる被爆の実証のほか、コーラスやジャズバンドの演奏が行われた。様々な視点から平和問題について考え世界中の平和を願うきっかけのイベントとして毎年8月に開催されている。

絵を通して伝える

町高 基町高校

〜原爆を知らない人へ〜

基町高校・創造表現コースでは毎年生徒が原爆の被害にあったヒロシマを絵に描き、当時の様子を伝えていく。今年原爆の絵を担当した生徒たちも「入学する前からこの活動を知っており、絶対に参加したいと思っていた」「小中学校と平和活動をしてこなかったため関わってみたい」「絵を通して戦争の悲惨さを伝



被爆者である切明千枝子さんからの証言を聞き、忠実に絵に描いた基町高校3年の岡田友梨さんが登壇して作品への思いなどを伝えた

え『平和』が当たり前になつてほしいという願いを込め参加した」と思いはそれぞれだが、平和に対する強い意志は同じだ。

被爆者から直接当時の体験を聞き、できるだけイメージに近づけるのは大変な作業。絵を描いていると悲しい過去の出来事に胸が苦しくなることもあったが、最善を尽くして描き上げた。普段から大学の教授らとの交流により戦争や平和に対する知識を深めており「今回被爆者の体験を聞くことができたので、この経験を踏まえ次の発表に活かしたい」と意気込んだ。

「書」を通して楽しむ

平和を願う機会を

安田女子大学文学部書道科の大書パフォーマンスは新型コロナウイルス対策で事前収録したものを発表する。平和の「わ」と五輪の「わ」を掛けた「輪」の字



大きな書に込められた平和への思いも発信された

8月5日(木)、アステールプラザを会場に「ピースアクションinヒロシマ」が開催された。昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大に伴い会場への観客の動員はなかったが、様々なプログラムにより「ヒロシマの思い」がオンラインで全国へ発信された。

核兵器は絶対ダメ

「知らないで終わらせないで」



自身の体験と平和への思いを語る被爆者の切明千枝子さん

15歳の時、皆実町の煙突工場で被爆した切明千枝子さん(91)は、「戦争は絶対だめ。どんなことがあっても核兵器が使われることがあってはならない」と戦争反対の意を強く表明し「今生きてる人に、戦争の悲惨さを伝えたい」と活動への決意を明かした。平和活動をする若者に対し「世界には原爆の恐ろしさを知らない人も無数にい

ているのは学校内外のイベントでパフォーマンスを見せ、平和を発信する書道学科。書は小さな子どもから大人までだれでも楽しむことができるのが魅力だと感じている。今回のパフォーマンスにも平和への思いを込めた。「緊張しながら書いた」と笑顔で語った。コロナウイルスの影響で未だ舞台での発表ができていない書道学科の学生たちは「舞台でパフォーマンスできる日を心待ちにしている」と爽やかに語った。

「新聞」を通じて訴え 若者も無関心 ではいけない

本校新聞部も「高校生による平和活動」としてこれまでの取り組みを発表した。若者が平和問題を知り、考えるきっかけとなるべく行ってきた新聞づくりを紹介。年々被爆者の平均年齢が上がり直接話を聞く機会



「虹の広場」では新聞部も発表

も減っている中着目したのは、実際に訪れることで76年前のあの日に思いを馳せ

ることができる被爆建物だ。老朽化や耐震化の問題で解体案が浮上した被爆支廠についての特集は1年にも及んだが、特集記事に対する生徒からの手ごたえはなかった。文化人や議員の意見を取り入れ新聞に説得力を持たせるなど工夫を凝らしたことで、生徒同士で意見を交わし合う姿を見ることができたと発表した。「若者が無関心ではいけない。考えることが大切」と強調した。新聞部平和問題担当の小林未来記者(21)は「このイベントで様々な平和の伝え方があることを知った。絵なら原爆の実証がより分かりやすい。今後の平和取材へいい影響としたい」と成果を語った。

未来の社会のリーダーへ 「次世代へ記憶の継承を」



広島県生活協同組合連合会 福島 守さん

「2021ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ」の運営を務める広島県生活協同組合連合会事務局長の福島守さんは、今回のイベントを通して平和の大切さを世界中に発信できたと満足する。例年は8月に年間100万人以上の外国人が広島を訪れ平和の大切さを感じてもらえる。昨年新型コロナウイルスの影響でそれができなかった。「そんな中でイベントを開催できてよかった」と安堵の表情を浮かべた。

未来を担うのは次世代。「社会のリーダーになるときに平和の大切さを頭の片隅に置き、記憶の伝承を意識してほしい」と期待する。